

平成 31 年 3 月 25 日

平成 30 年度国立大学図書館協会海外派遣事業（短期）参加報告書

神戸大学附属図書館

石黒 康太

平成 30 年度国立大学図書館協会海外派遣事業において米国の図書館（大学・公共）を訪問し、調査を行ったことを以下に報告する。

1. 派遣期間

平成 31 年 1 月 21 日（月）～平成 31 年 1 月 27 日（日）

2. 訪問先／担当者

University of Oregon, Allan Price Science Commons & Research Library	Mr. Mark R. Watson Mr. Kevin McDowell
University of Portland, Clark library	Ms. Susan Hinken
Pacific Northwest College of Art, Albert Solheim Library	Ms. Serenity Ibsen Ms. Sara Bystrom
University of Washington, Suzzallo and Allen Libraries	施設見学のみ
Seattle Public Library, Central Library	施設見学のみ

3. 調査目的

調査テーマ「大学図書館空間とその建築プロセスにおける図書館員の役割：米国の図書館建築プロジェクト事例から」に基づき、図書館建築プロジェクトの経緯、プロジェクトにおける組織体制と図書館員の役割、建築家・大学施設担当部局・利用者といった関係者と図書館員との間にどのようなパートナーシップが形成されていたかを明らかにすることを目的とする。

4. 調査結果

1. University of Oregon, Allan Price Science Commons & Research Library

既存建物の全面改修および増築であり、竣工は 2016 年である。個人から高額の寄付があったことがこの計画のきっかけとなった。2014 年に最終設計が完成し施工が開始されたが、その前段階として 2011 年に改修の方向性とアイデアをまとめたドキュメントを作成、そして 2013 年により具体的なデザインコンセプトを作成している。これらはそれぞれ別の設計事務所へ依頼して作成された。なお

これらの設計事務所は最終設計には関わっていない。その最終設計を作成するために図書館員、教職員からなるユーザーグループが結成された。このグループにおいて Project Sponsor を務めたのは当時の Library Dean であり、User Group Chair を務めたのは改修対象館の図書館員だった。また最終設計者を選定したのはこのユーザーグループである。3つの設計事務所が最終設計者として候補に上がっていたが、ユーザーグループによるインタビューを経てその内の1社に決定された。設計の過程においては設計者を含めた定期的なミーティングと臨時的なミーティングが行われていた。またプロジェクトが進む中で、予算等の理由から予定されていた仕様を満たすことが難しくなる場面もあったが、各関係者と協議・調整することで、そういった課題も解決していったとのことだった。

2. University of Portland, Clark library

竣工は2013年。以前より大学内において図書館の更新/改修を求める意見が広がっていたとのことだった。そして2005年当時の景気低迷も要因となり図書館を新築するのではなく改修することに決まった。当時の Library Dean は図書館計画/建築のマネジメントについて豊富な経験を積んでおり、その Dean が図書館においてコーディネーターとして主導的な立場を担い、新図書館計画の下地となるプレデザイン作業も行ったとのことだった。またこのプロジェクトに際して図書館 (Dean, Management Team)、図書館外の部局、建築会社からなるチームが形成されたとのこと。なおこの建築会社は大学と長年取引のある業者であり、この建築会社が一貫してこのプロジェクトを担当したとのことだった。また大学のファンドレイジングを担当している部局 (The Development office) と Library Dean の間に良い関係が構築されていたことがプロジェクト成功の鍵と考えられるとのことだった。

3. Pacific Northwest College of Art (PNCA), Albert Solheim Library

キャンパス移転に伴った図書館の新設と移転である。2015年に移転が完了した。PNCA は2008年に新しい課程の設置や新しいキャンパスの入手などを目的としたファンドレイジングキャンペーンを公表しており、また同時期に連邦政府のプログラムを通じて過去郵便局として使われていた古いビルを獲得した。それを改修した建物が現在のメインキャンパスであり、図書館はその一階に設置されている。このように図書館の移転は図書館単体ではなく学校全体のプロジェクトの一部として行われた。移転および改修にあたって、図書館では図書館員、教員、職員、設計事務所による会議が頻繁に行われたとのこと。また新キャンパスの設計者選定に図書館は関わっていないとのことだった。学校の周辺地域は再開発が計画されており、PNCA は地域の発展に貢献することを望まれているのだろうとのことだった。

4. University of Washington, Suzzallo and Allen Libraries (施設見学のみ)

1923年に起工し1926年にオープンした図書館である。その閲覧室はゴシック様式の教会のような高い天井と伝統的な内装によって荘厳な雰囲気を作り出しており、ここで勉強することが神聖なことであるように感じさせられた。

5. Seattle Public Library, Central Library (施設見学のみ)

2004年竣工のOMA（1975年に建築家のレム・コールハースらが設立した建築設計事務所）の設計による現代建築の図書館である。図書だけではなく、様々なアプリケーション（MS Office, Adobe Creative Cloudなど）を搭載したPCを多数設置しており、情報環境が非常に充実している。また建築として評価が高い建物であり見学者も多く見受けられた。その中で多数かつ多様な利用者が図書、閲覧席、PCを利用していた様子から、図書館サービスの水準の高さを感じた。建築に引き付けられた人が、図書館サービスに触れ、多様な利用者がいる様子を見ることによって、図書館がこういった場所であるか、社会がこういった状況にあるのか、という知見を得ていく流れができていているように感じた。

6. 所感

インタビューを行った3つの図書館は、それぞれ資産規模や人員などの諸条件が違っており、プロジェクトチームの編成もそれぞれ異なっていたが、パートナーシップの形成という点で以下のことが共通していた。一つは各関係者との連携を重視し、図書館の枠組みを超えたチームが形成されていた点である。またインタビューの中で図書館員の立場を殊更に強調する様子はなく、あくまでチームとしてプロジェクトに取り組むという姿勢が感じられた。これらのインタビューを通して、米国では多様な関係者からなるチームをいかに形成するかがプロジェクト成功のための重要な要素であると意識されていることがうかがえた。

また、このように多くの関係者が存在し、様々な意思決定が絡むプロジェクトにおいて、どうすれば最後までコアとなるコンセプトを貫くことができるのかとUniversity of Oregonで伺ったところ、「実現性を考えなくてはならない実施設計に入る前に、アイデアファーストでしっかり計画すること」という回答を得た。事実、University of Oregonは実施設計に入る前に二つ建築計画に関わるドキュメントを作成している。これらのことからプロジェクトへ向けたチーム作りにおいて、各関係者の理解を得るため、そして良好なパートナーシップを形成するためには、そういった事前の準備を図書館内で十分に行っておくことが重要であることが示されているといえる。